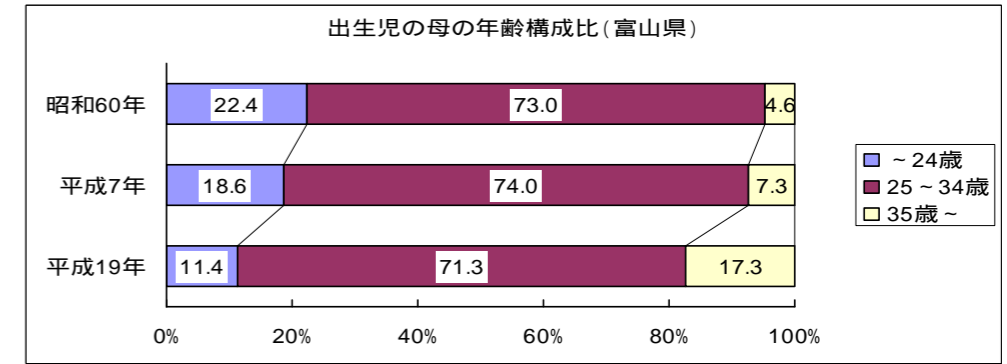


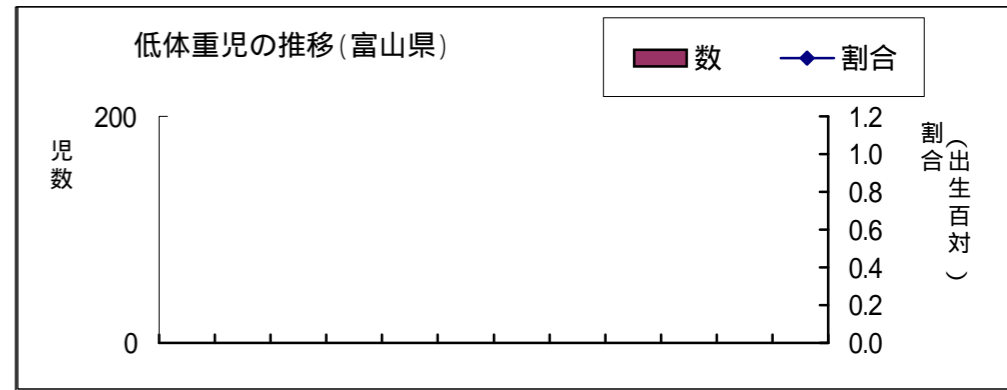
3 母子保健医療体制の充実

	現状と課題等
母子保健に係る取組	<p>近年、晩婚化の傾向に伴い、ハイリスク妊娠や低出生体重児などが増加している。</p> <p>妊産婦死亡率や新生児死亡率等は大変低く推移しているが、近年では、健診未受診妊婦の問題や児童虐待など、新たな課題への対応が求められている。</p>
障害等のある子どもに対する支援	<p>身体障害を有する子どもは、ほぼ横ばい傾向にあるが、知的障害を有する子どもは、増加傾向にある。</p> <p>障害の予防・早期発見のため、妊娠期から乳幼児期、小児期にわたって健康診査や相談指導などを行うとともに、障害を有する子どもや保護者に対し、早期から適切な対応(療育)を充実する必要がある。</p> <p>障害児が小・中・高へと学歴が上がる際に、その子の障害の状況などが適切に次の学校に引き継がれるなど、一貫した支援が行われるよう、関係機関が連携して福祉サービスや教育が適切に提供される体制の整備を図る必要がある。</p> <p>発達障害については、発達障害者支援センターにおける相談件数が大幅に増加しており、「気になる」という段階から、親子をサポートできるような仕組みが必要である。</p>
周産期医療などの体制の整備	<p>分娩を取り扱う産科医療機関が減少している中で、出産年齢の高年齢化等、リスクの高い妊娠や全出生に占める低出生体重児の割合が増加している。</p> <p>安心な妊娠・出産のために、分娩を取り扱う医療機関や助産所が身近な地域に存在することが必要である。また、リスクの高い妊娠や緊急時に対応するため、24時間体制で高度な周産期医療を安定的に提供できる体制づくりが必要である。</p>
不妊治療に係る情報の提供	<p>不妊専門相談センターで、相談員による専門相談を受ける体制ができ、厚生センターにおいても相談を実施しているが、不妊治療に関する多様な相談ニーズに応える必要がある。</p>

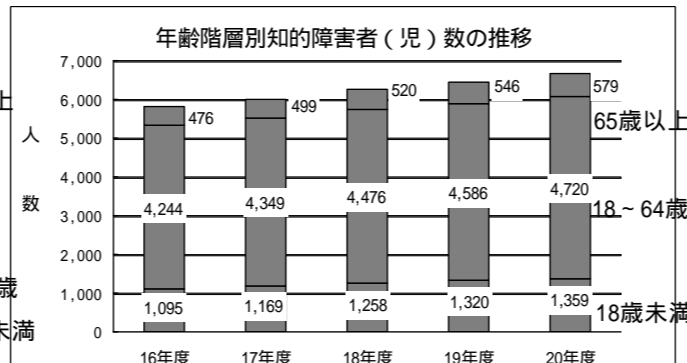
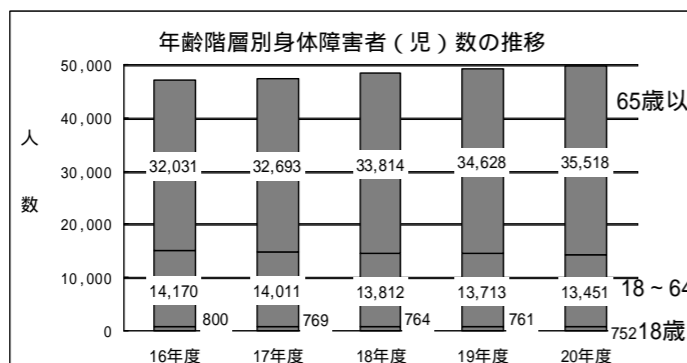
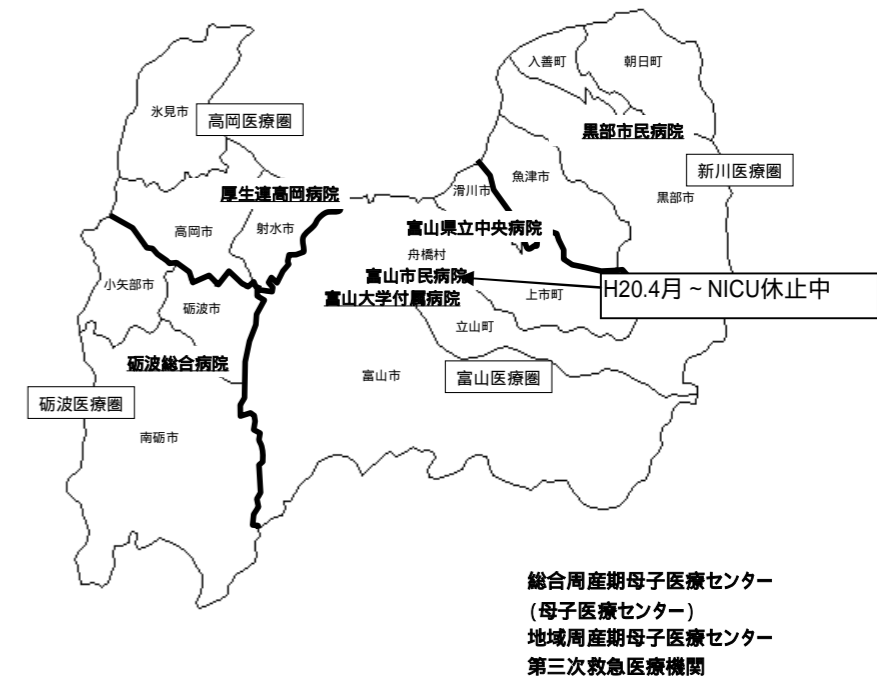
県の主な取組
<p>市町村が行う妊産婦・乳幼児健康診査など母子保健事業に対する支援</p> <p>小さく生まれた赤ちゃんや養育に支援を必要とする子どものための相談会等の開催</p> <p>出産前後や子育て中の女性のための相談会の開催</p>
<p>乳幼児への家庭訪問や健康診査及び相談等の実施(疾病や障害の早期発見・早期対応)</p> <p>障害児施設において、療育支援等を行うとともに、在宅への訪問支援や外来による相談支援、関係施設への技術支援等を実施</p> <p>在宅の重症心身障害児に対し、通園による療育支援や訪問指導等を支援</p> <p>在宅障害児等を対象とした日中預かり事業や、特別支援学校に通う児童の放課後預かり事業などを支援</p> <p>身近な地域における福祉サービスとして、ホームヘルプサービス、児童デイサービス、短期入所等を支援</p> <p>地域自立支援協議会を活用した相談支援の充実</p> <p>発達障害について、健康診断用スクリーニングマニュアルの活用や、発達障害者支援センターにおける発達障害児及び保護者に対する相談支援等の実施</p>
<p>二次医療圏ごとに1箇所の地域周産期母子医療センターを配置</p> <p>全県域を対象に高度な周産期医療を提供する総合周産期母子医療センターを県立中央病院に整備</p> <p>周産期第三次救急輪番体制の整備</p>
<p>不妊治療費助成事業の情報をホームページなどで掲載、県内産婦人科医療機関に、富山県不妊専門相談センターの案内カードを配布</p> <p>富山県不妊専門相談センターで、助産師や心理士等専門相談員による相談を受付。また、県内各厚生センターにて保健師が随時相談を受付</p>



【資料 県厚生部「人口動態統計」】



【資料 県厚生部「人口動態統計」】



【資料 県厚生部調査】

医療圏の設定及び人口等

二次医療圏	構成市町村	人口	出生数
新川	魚津市、黒部市、入善町、朝日町	129,773人	1,015人
富山	富山市、滑川市、舟橋村、上市町、立山町	507,770人	4,175人
高岡	高岡市、氷見市、射水市	325,431人	2,516人
砺波	砺波市、小矢部市、南砺市	138,318人	1,022人
三次医療圏(県全体)		1,101,292人	8,728人

人口は平成20年10月1日現在、出生は平成19年人口動態統計値